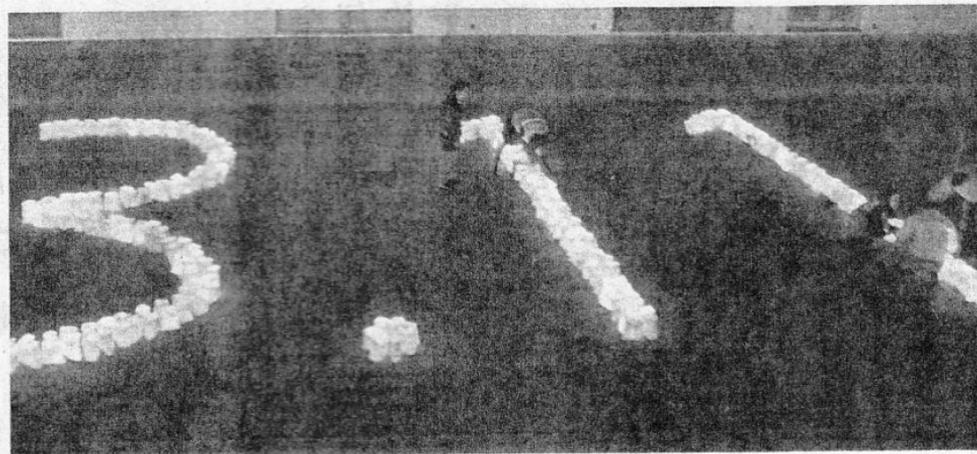


悼み願う県内

東日本大震災から3年となった11日、県内でも犠牲者を悼み、復興を願う催しがあった。



3・11 忘れぬ灯

岡山

岡山市北区の県生涯学習センターでは午後7時、「3・11」の数字をかたどった311個のキャンドルに灯がともされた。

県内に住む20～30代の大学生や会社員らで結成した被災者支援団体「3.loveline」が、自主

制作映画「Message」の初上映会にあわせて企画した。映画は、岩手県陸前高田市の若者たちを撮った3年間の記録。

メンバーの中園謙二さん(33)は「何年経っても被災地を忘れないように、小さくても続けられる支援をしたい」と話した。団体は今後も県内での上映を予定している。

(逸見那由子)

宗教超えて祈り

岡山

異なる宗教の関係者が集まり、犠牲者の追悼や被災地の復興へ祈りをささげる「東日本大震災RNN慰霊祭」が、岡山市北区尾上の黒住教本部であった。

県内を中心に12の宗派・教団でつくる「人道援助宗教NGOネットワーク(RNN)」が開き、天台宗、金光教、立正佼成会、カトリック、真言宗、黒住教の関係者らが参加。地震が発生した午後2時46分に、被災地のある東の方向に向かって黙禱した。

その後、RNN委員長の永宗幸信・天台宗本性院住



職が「震災では命の尊さへの気づきを得た。それを糧に被災地や物故者へ念じて欲しい」とあいさつし、それぞれ宗教の参加者が交代で祈りを捧げた。

(神田剛)